アレキサンダー　ロニー　バレット　教授　略歴

学　歴

1977年５月　イェール大学・イェール・カレッジ卒業（心理学専攻）

1984年３月　国際基督教大学大学院行政学研究科博士前期課程修了（行政学修士）

1988年３月　上智大学大学院外国語学研究科国際関係論専攻博士後期課程退学

1989年12月　博士（文学）上智大学

職　歴

1989年５月　神戸大学法学部助手

1990年４月　神戸大学法学部助教授

1993年４月　神戸大学大学院国際協力研究科教授（法学研究科兼務）

2022年３月　神戸大学大学院国際協力研究科教授定年退職

2022年４月　神戸大学名誉教授

学会活動ほか

1990年～現在　日本平和学会会員
（1990年～2012年，2014年～現在　理事，1995年～1997年，2003年～2005年，2018年～2020年　副会長，2012年～2014年　監査）

1991年～現在　神戸ＹＭＣＡ国際委員会委員（2016年～2020年　委員長）

1993年～1995年　神戸市総合計画（マスタープラン）審議委員

1994年～1995年　兵庫県人権問題研究アドヴァイサー

1994年～2006年　国連大学グローバルセミナー神戸セッション実行委員会

1995年～1997年　兵庫県阪神・淡路震災復興計画推進委員会 委員

1995年～1998年　21世紀ひょうご創造協会「阪神・淡路震災復興計画策定調査委員会」委員

2009年～2022年　広島大学平和科学研究センター客員研究員

2009年～2011年　関西インターメディア株式会社　番組審議会委員

受　賞

2007年　NPO法人Knots（ノッツ）「りぶ・らぶ・あにまるず賞」

2007年　神戸YMCA，ボランティア奨励賞

2012年11月　神戸大学 男女共同参画貢献賞

2020年　International Studies Association, Peace Studies Section, Distinguished scholar

以上

アレキサンダー　ロニー　バレット　教授
主要業績目録

著書

1．高田哲, 桂木聡子『ポーポキのマスクギャラリ～コロナ禍でアートを通して日常の安心を探る』, 神戸大学出版会 2022 年 2 月（編著）

2．高部優子，奥本京子，笠井彩編『平和創造のための新たな平和教育－平和学アプローチによる理論と実践』（範囲：第 4 章 ふりかえり～その理論と実践、IV-7 ウォームアップ集）法律文化社 2021 年 12 月（監修）

3．國部克彦，鶴田宏樹，祇園 景子『価値創造の教育 : 神戸大学バリュースクールの挑戦』,（範囲：第 12 章 ダイバーシティの価値）神戸大学出版会，神戸新聞総合出版センター，2021 年 8 月（分担執筆）

4．Ayano Ginoza, ed., *The Challenges of Island Studies*（範囲：Chapter 1, pp.17-27, Panel Discussion, pp.95-116）Springer, 2020 年（分担執筆）

5．Annick T.R. Wibben, Amanda E. Donahoe, ed. *Teaching Peace and War: Pedagogy and Curricula*（範囲：第 3 章“Teaching Peace with Popoki”）Routledge 2020 年（分担執筆）

6．Dale Snauwaert, ed., *Exploring Betty A. Reardon's Perspective on Peace Education,*（範囲：第 11 章：“Some Questions from Popoki to Betty Reardon About Human Security, Gender and Teaching/Learning/Creating Peace,” pp.151-160, Springer 2019 年（分担執筆）

7．Betty A. Reardon, Asha Hans, eds. *The Gender Imperative ~Human Security vs State Security, 2nd edition,*（範囲：“Seeking human security in a militarized Pacific: Struggles for peace and security by Pacific Island women,” pp.191-221）Routledge 2019 年 1 月（共著）

8．Caron E Gentry, Laura J. Shepherd, Laura Sjoberg, eds. *Routledge Handbook on Gender and Security,*（範囲：“Gender, Structural Violence and Peace,” pp.27-36）Routledge 2018 年 9 月（共著）

9．田代順子監修，堀内美由紀・岩佐信也編『ワークブック国際保健・看護基礎論』（範囲：「平和構築」）ピラールプレス，2016 年 3 月（共著）

10. Rekha Pande, ed. *A journey into Women's Studies: Crossing Interdisciplinary Boundaries,*（範囲：“Feminism and Women's Studies in Japan,” pp.174-193）Palgrave 2014 年 8 月（共著）

11. 『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』，エピック，2014 年 3 月

12. 日本平和学会編『平和を考えるための 100 冊＋α』，法律文化社 2014 年 1 月（共著）

13. セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク編『セクシュアルマイノリティ（第３版）～同性愛、性同一性障害、インターセックスの当事者が語る人間の多様な性』，明石書店 2012年9月（共著）
14. 『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅 エピック社，2012年１月
15. 土佐弘之編『グローバル政治理論』，人文書院，2011年６月（共著）
16. Jacqueline Leckie, ed. *Development in an Insecure and Gendered World,*（範囲：“Costly Development? Gendered insecurity in a militarized Pacific.” pp.113-136）Ashgate 2011年（共著）
17. Betty A. Reardon, Asha Hans, eds. *The Gender Imperative: Human Security vs. State Security,* 1st edition,（範囲：“Seeking human security in a militarized Pacific: Struggles for peace and security by Pacific island women,” pp.191-121）Routledge, 2010年（共著）
18. Edward Demenchonok, ed. *Philosophy After Hiroshima,*（範囲：第13章“The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace,” pp. 399-418）Cambridge Scholars Publishing, 2010年（共著）
19. Laura Sjoberg and Sandra Via, eds. *Gender, War and Militarism,*（範囲：第５章“Confronting Militarization: Intersections of gender(ed) violence, militarization and resistance in the Pacific,” pp.69-79.）Praeger, 2010年（共著）
20. 『ピース・マシンの旅 東京・ゲルニカ・重慶編』，岩波書店，2009年８月
21. 『ポーポキ、友情って、なに色？ ポーポキのピース・ブック２』，エピック，2009年４月
22. *Aboriginal Governance and Globalization. Proceedings of the International Symposium held at the University of Winnipeg 31 January-2 February 2008,* University of Winnipeg, 2009年（共著）
23. 『実りある人生』，エピック，2008年３月（監修）
24. 『岩波DVDブック Peace Archives ヒロシマ・ナガサキ』，岩波書店，2007年８月（共著）
25. 『ピースマシーンの旅 ヒロシマ・ナガサキ編』，岩波書店，2007年８月（共訳）
26. 『ポーポキ、平和ってなに色？ ポーポキのピース・ブック１』，エピック，2007年５月
27. 『ピース・マシンの旅 オキナワ編』，岩波書店，2006年８月
28. セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク編『セクシュアルマイノリティ』，明石書店，2006年３月（共著）
29. 『ピース・マシンの旅』，岩波ＤＶＤブック Peace Archives 平和ミュージアム，2005年12月（著訳）
30. 『DVD：ポーポキのピース・メッセージ，岩波書店，2005年12月
31. 岡本三夫他『平和学のアジェンダ』（範囲：「セクシュアル・マイノリティの平和学：性的多様性が容認される社会の創造に向けて」），法律文化社，2005年５月（共著）

32. 五十嵐暁郎他編『東アジア安全保障の新展開』,（範囲:「ジェンダーの視点から見た安全保障」）明石書店，2005 年 4 月（共著）
33. 高柳昭夫『私たちの平和をつくる－環境・開発・人権・ジェンダー』，法律文化社，2004 年（共著）
34. 佐藤 幸男編『太平洋アイデンティティ』（範囲：「太平洋嶼国の内発的安全－非核・独立太平洋運動を例に」，43-83 頁），国際書院，2003 年（共著）
35. “Local Industry in a Global World: Implications of Nova Scotia Tuna Ranching”（範囲：pp.113-141），Elisabeth Mann Borgese, Aldo Chircop, Moira McConnell（共著），*International Ocean Institute (Ocean Yearbook 16)* 2002 年
36. 初瀬龍平・定形衛・月村太郎編『国際関係論のパラダイム』（範囲：「ジェンダー：国際関係論の研究においてジェンダーの視点がなぜ重要か」，164-175 頁），有信堂，2001 年（共著）
37. 納家政嗣、竹田いさみ編『新安全保障論の構図』（範囲:「ジェンダーと安全保障：何が問題か」，64-79 頁），勁草書房，1999 年（共著）
38. 春日直樹編『オセアニア・オリエンタリズム』（範囲:「オリエンタリズム批判への警鐘：非核・独立太平洋運動からみる『太平洋アイデンティティ』」，153-178 頁）国際書院　1999 年
39. 臼井久和，星野昭吉編『平和学』，（範囲：「ジェンダーと平和：どこからアプローチするか」，197-236 頁）三嶺書房　1999 年　（共著）
40. 『核の２０世紀』，平和のアトリエ 1997 年（共著・訳）
41. *Fishing for Answers: Women and Fisheries in the Pacific Islands,* Women and Fisheries Network 1995 年（共著）
42. *Putting the Earth First: Alternatives to Nuclear Security in Pacific Island States,* Matsunaga Institute for Peace, University of Hawaii 1994 年
43. 『大きな夢と小さな島々～太平洋島嶼国の非核化にみる新しい安全保障観』，国際書院，1992 年 3 月
44. 臼井久和・内田孟男編『地域社会の危機と再生』（範囲：「内発的安全保障を求めて―太平洋島嶼国から考える」，93-111 頁），有信堂，1990 年（単訳）
45. 畑博行編『太平洋諸国の法と社会』（範囲：「太平洋島嶼国の安全保障問題」72-92 頁）1990 年（共著）
46. 三輪公忠、西野照太郎編『オセアニア―島嶼国と大国』（範囲：第 11 章「核問題と平和：核に関する共通の体験を通して」305-338 頁），彩流社，1990 年（担当：共著）
47. YMCA 国際平和研究所編『日本はアジアの友人か』（範囲:「太平洋諸国の独立と非核化の課題」101-122 頁），東研出版，1989 年（共著）

48.『銀座と戦争』平和のアトリエ 1986 年（共著・訳）
49.『アウシュヴィッツの記録』，三省堂，1985 年（共著・訳）

学術論文

1．桂木聡子，勅使河原君江，「被災者の多様で個別的な安心についてお絵かきを通して思索する活動」神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要，15（2），53-65 頁，2022 年 3 月
2．“Art-stories as reflection: Learning from the Popoki Peace Project,”『国際協力論集』，29（2），27-51 頁，2022 年 2 月
3．“Introduction; Review of Rebecca Forgash. Intimacy across Fencelines: Sex, Marriage, and the U.S. Military in Okinawa.,” Ronni Alexander, Mitzi Carter, Sealing Cheng, Nicole Constable, Mire Koikari, Rebecca Forgash, *H-Diplo ROUNDTABLE, XXIII*（12), 2 - 7, 2021 年 11 月
4．“Reflecting on Hiroshima/Nagasaki at 75”, *Peace Review,* 32（3), pp.325-331, 2021 年 6 月
5．桂木聡子「被災体験後「今」を表現する：絵から読み取れる被災ナラティブ」,『国際協力論集』, 27（2），17-32 頁，2020 年 1 月（共著）
6．「災害支援におけるアートの意義～ポーポキ・ピース・プロジェクトから学ぶ」,『国際協力論集』, 28（2），1 - 22 頁，2020 年 1 月
7．「ジェンダー化された安全―グアハン／グアム島における安全 安心から学ぶ」，『ジェンダー研究』，39（22），7 - 25 頁，2019 年 9 月
8．“Gender, Disaster and Stories from Popoki: Learning from Women Survivors in Northeast Japan”『国際協力論集』，26（2），17 - 37 頁，2019 年 1 月
9．“Thinking about human rights with the Popoki Peace Project” Human Rights Education in Asia-Pacific, 8, pp.83 – 106, Asia-Pacific Human Rights Information Center, 2018 年 7 月
10. “Feeling Unsafe: Exploring the Impact of Nuclear Evacuation”, *Journal of Narrative Politics,* 4（2), pp.65 – 87, 2018 年 5 月
11. “Living with Disaster Capitalism in Fukushima” *Peace Review,* 30（2), pp.152 - 159, Routledge, 2018 年 4 月
12. “Teaching Peace with Popoki” *Peace Review,* 30（1), pp.9 - 16, Routledge, 2018 年 1 月 2 日
13. “Drawing Disaster: Reflecting on Six Years of the Popoki Friendship Story Project”,『国際協力論集』，25（2），59 - 96 頁，2018 年 1 月
14. “Living with the fence: militarization and military spaces on Guahan/Guam” *Gender Place and Culture,* 23（6), pp.869 - 882, Routledge Journals, Taylor & Francis, 2016 年 6 月

15. “Earthquake Survivor Support Activities: Learning from the ‘Popoki Friendship Story’ Project,” *Pacific Asia Inquiry: Multidisciplinary Perspectives in the Liberal Arts & Social Sciences,* Volume 6 (Fall 2015), pp.85 - 96, University of Guam, 2016 年 2 月
16. “Militarization and Identity on Guahan/Guam: Exploring Intersections of indigeneity, gender and security”『国際協力論集』，21 (1)，1-22 頁，2013 年 7 月
17. 「東日本大震災における被災者支援活動 ～「ポーポキ友情物語」プロジェクトを事例に～」『神戸大学都市安全研究報告』，第 16 号，2013 年 3 月
18. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War,” *International Feminist Journal of Politics,* 14 (2), pp.202 - 222, Routledge Journals, Taylor & Francis, 2012 年
19. 「軍事化・生政治に直面する女たち～太平洋地域からの考察」広島平和科学，31，2009 年 12 月
20. “Human Rights, Popoki, and Bare Life,” *In Factis Pax,* Vol. 3, No.1, 2009 年
21. “Confronting Militarization: Struggles for Peace and Security by Pacific Island Women,”『国際協力論集』第 16 巻 第 1 号，2008 年 7 月
22. “Popoki, What Color is Peace? Exploring critical approaches to thinking, imagining and expressing peace with the cat, Popoki,” *In Factis Pax,* Vol.2, No.2, 2008 年
23. “Building Paths to Peace: Popoki’s Peace Project,”『国際協力論集』14 巻第 3 号 17-50 頁，2007 年 3 月
24. “Political Violence in the South Pacific: Women after the Coups in Fiji,”『国際協力論集』，第 14 巻第 1 号 17-50 頁，2006 年 7 月
25. 「被爆 60 周年記念シンポジウム ヒロシマ・ナガサキの継承―子どもたちへ世界へ」平和教育研究，年報 Vol.33 2005，2006 年 3 月
26. 「平和研究と平和の実践」（巻頭言），日本平和学会ニュースレッタ，Vol.16, No.2，101 頁，2004 年 9 月
27. 「非暴力の選択肢は ― イラク情勢・自衛隊派兵に思う」，『ヒューマンライツ』，2 月号 No.191，2-3 頁，2004 年 4 月
28. 「わたしの性ごころ バレンタインディから始まる異性愛教育」，『季刊セクシュアリティ』，No.16 2-3 頁，2004 年 4 月
29. 「平和を阻む「日常」性－ナショナル / トランスナショナル・バイオレンスにかかわる「ジェンダー」」，『国際協力論集』，第 11 巻第 3 号，2004 年 3 月
30. 「戦争体制において平和研究の可能性を探る」『女性・戦争・人権』，第 6 号 53-63 頁，2004 年
31. 「シロクマと地球温暖化」，朝日 21 関西セウクエア会報，第 51 号 4-6 頁，2003 年 4 月

32. “Social Transformation or a New Fashion: Sexual Minorities in Japan,”『国際協力論集』第10巻第3号，95-121頁，2003年3月
33. 「大学の国際化—大学教員として日本に残った元留学生の体験から語る」，神戸大学国際シンポジウム実行委員会編『世界の中の日本学』, 229-240頁,（財）日本国際教育協会 東京国際交流館・, 2003年
34. 「性について自由に語り合える場を！外国人として、セクシュアルマイノリティとして感じること」季刊『女も男も』，2-3頁，2003年
35. 「国際関係論における『ジェンダー』の視点の意義」『国際協力論集』第9巻第3号、71-94頁，2002年2月
36. 「「セクシュアル・マイノリティと戦争 9.11」をきっかけに考えたこと」，『状況』，8-9号、182-195頁，2002年
37. 「安全保障における日常性・非日常性：太平洋島嶼国を例に取った場合」，『国際関係の日常性と非日常性—ポストモダンの国際関係論の構築に向けて—』、研究代表者：初瀬龍平，2001・2 平成11 - 平成12年度文部省科学研究費補助金基礎，2001年2月
38. “Japan and the Pacific Island Countries,” *Revue Juridique Polynesienne, Numero hors serie 2001. Levine, Stephan, Anna Powles & Yves-Louis Sage, eds.* Contemporary Challenges in the Pacific: Towards a New Concensus, Vol. 1, pp.123-142, 2001年6月
39. “Governing the Commons? The Bluefin Tuna Dispute and the Creation of an Endangered Species”，『国際協力論集』，第8巻第2号、pp.89-106，2000年11月
40. 「太平洋の漁業開発、女性と安全」，『国立民族学博物館研究報告』，別冊21号，261-281頁，2000年
41. “Regional Cooperation, Regionalism and Security in the Pacific: Looking at Tuna fisheries”, *Kobe University Law Review,* No. 31, pp.1-32, 1997年
42. “Security in the Context of our Everyday Lives: Lessons from the Great Hanshin Earthquake.” *Kobe University Law Review,* No. 30, pp.1-28, 1996年
43. “The French Nuclear Tests: Implications for Peace and Nuclear-Free Movements.”, *Asia-Pacific Peace Research Association Newsletter 1996,* No.1, pp.4-23, 1996年
44. 「「もう一つの」安全：世紀末に思う新たな国家安全論」，『神戸法学雑誌』，第45巻第3号、463 - 505頁，1995年12月
45. “The Struggle's Not Yet Over: Nuclear Free Issues in the Pacific Islands Today.”『国際協力論集』，第3巻第1号、45 - 74頁，1995年6月
46. “Security, Women and Tuna: A Look at Fiji,” Elizabeth Matthews, ed. *Fishing for Answers:*

Women and Fisheries in the Pacific Islands, Suva: Women and Fisheries Network, pp. 91-100, 1995年

47. “Guns, Butter and Tuna: Alternative Security in the Pacific Island States,『国際協力論集』, 第2巻1号，115-140頁，1994年
48. 「自治体の平和政策」，『自治体学研究』，52春，27 - 30頁，1992年
49. 「中東シェルター・ゲーム」，月刊ホームルーム，11月号，80-87頁，1991年11月
50. 「日本の国際意識と国際理解教育」，『国際理解』，23，84-87頁，1991年
51. “Security Issues of the Pacific Island States”, Satow Yukio, ed., *IPSHU Research Report series,* Research Report No. 16: Prospects for Demilitarization in the South Pacific, pp.63-86, 1991年
52. 「世界システムの縁辺から見た安全保障─新しい安全保障概念をもとめて」，『平和研究』，15, 92-102頁，1990年
53. “Japan: The emerging colossus?”, *Interdisciplinary Peace Research,* 2（2）, pp.37 - 61, 1990年
54. “Tropical Rainforests and Japan: Profits vs. Responsibility,” *Peace Studies Newsletter,* No. 9, pp.4-10, 1990年1月
55. 「太平洋地域の微小国家と非核化運動」，神戸法学雑誌，39巻3号 653 - 680頁，1989年12月
56. “Micro-States and Denuclearization in the Pacific: The Nuclear Free and Independent Pacific Movement and Nuclear-Free Initiatives in Belau, Fiji and Aotearoa,” 博士論文 上智大学, 1989年3月
57. 「太平洋島嶼国をめぐる生存の条件─安全と環境 」武者小路公秀・馬場伸也「福祉国際社会構築のための総合的パラダイムの考察」（科研報告書、総合研究A 63300010），143-158頁，1989年
58. “Nuclear Issues and Peace: A Shared Legacy”, *Pacific Perspective,* 14/1 pp.64-70, 1989年
59. “Micro-States and Power Politics in the Pacific: Some Thoughts on Nationalism, Security and Denuclearization,” *The Journal of International Studies,*（Institute of International Relations, Sophia University）, No. 21, pp.81-102, 1988年7月
60. 「北マリアナ諸島連邦、マーシャルショトウ共和国、及びパラオ共和国における太平洋非核地帯の経済的意義」，修士論文 国際基督教大学大学院行政学研究科前期課程，1984年

その他（社会貢献）

1．平和教育・災害支援活動

2006年1月にポーポキ・ピース・プロジェクトを立ち上げ、平和研究や平和教育の実践の場として、国内外で数々のセミナーやワークショップを行う。2011年の東日本大震災では、同

年3月末に「ボランティアバス先遣隊」の一員として参加。避難所などで行ったお絵かき活動をつかった支援を「ポーポキ友情物語」と名付けて、岩手県大槌町を中心に今も支援を継続している。同時に、国内外各地で「平和」、「安心」をキーワードにこの活動を展開している。災害支援における「お絵かき」の可能性や、それを把握する方法論を明らかにするために、「被災者が表現活動を通して具現化する「安心」～寄り沿い支援の実証的研究と理論の展平成30年度開」(2018年度) 挑戦的研究 (萌芽) (課題番号18K18647)　科研費　代表アレキサンダー・ロニー　2018.4～2021.3 (2023.3)。「震災後の「今」と「明日」を表現する～ポーポキ友情物語活動を通しての創造型コミュニケーション・スキルの開発」「東北大学等との連携による 震災復興支援・災害科学研究推進活動サポート経費」、神戸大学都市安全研究センター、2011年～2013年、2015年～2021年)「様々な表現方法を用いた災害コミュニケーションの発展可能性に関する学際研究～安全安心を軸に～」、プロジェクト研究支援金、神戸大学社会システムイノベーションセンター、2018年～2020年)。

2．平和教育・社会活動
また、ポーポキ・ピース・プロジェクトは、創設当初より、幼児から高齢者まで、だれでも参加できて、自分事として考えられる身近な平和づくりから世界の平和を考える活動までをつづけている。たとえば、2011年以来、毎年8月にアメリカ・グアムの活動家と核について語り合う集会、11月に平和と健康を考えるワークショップを行っており、2006年に東チモール、2008年、2009年にパレスチナのスタディツアーで、紛争地域での平和づくりを考え、阪神大震災以来神戸大学の学生ボランティアと地域の人が開催する「灘チャレンジ」(祭り) では、模擬店や展示など、幅広く大学と地域をつなぐ活動を続けている。例えば、毎年参加している研修セミナーで「平和って、なに色？ ねこのポーポキと一緒に 平和と安心を考えましょう」、第17回 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー JICA 関西 分科会③(2022.8. 3)。

3．2000年に朝日新聞全国版に性的マイノリティ (レスビアン) としてカミングアウトし、LGBTQI+の権利を推進する活動を様々な形で行う。例えば、「日本および世界におけるセクシュアル・マイノリティの状況と課題」特別講演、第30回兵庫県小児保険協会総会、兵庫県医師会館 (2022.8. 6)、「SOGIESCって、そんなに大切？世界と私たちを見つめる」Is SOGIESC really all that important? Thinking about the world and ourselves.” 兵庫県立大学国際交流センター　ゲストイベント (2022.7. 4) など。

4．2017年4月1日～2022年3月31日　神戸大学男女共同参画推進室長

5．2018年2月1日～2022年3月31日　神戸大学学長補佐 (ダイバーシティ担当)

6．2018年2月～2022年2月　第1期　神戸大学ユネスコチェア　チェアホルダー

7．2022年2月～現在に至る　第2期　神戸大学ユネスコチェア　チェアホルダー